

下野市立南河内中学校

1 学校課題

主体的に自分の将来を切り拓く生徒の育成
～わかる・できる学習の実践を目指して～

2 研究計画

(1) 研究のねらい

本校は昨年度から「思考のすべ」による発問の工夫に焦点をあて研究をすすめてきたところ、主体的に学習に取り組む「学ぶ意欲」が、思考力を高める活動を行うためには必要であると思われる。

今年度は、「わかる・できる」学習を積み上げることで楽しさを味わわせ、「学ぶ意欲」の向上につなげたいと考えた。「わかる・できる」授業の実践については、学業指導の徹底を図ることで、基礎・基本の習得に努め、昨年度研究してきた「思考のすべ」についてさらに研究をすすめることとする。また、思考力・判断力・表現力を高めるために「言語活動」の充実を図ることとする。

(2) 研究のすすめ方

①全校体制での取組

- ・研究の目的を明確にし、全職員の共通理解のもとに進める。
- ・全職員で、全国・とちぎっ子学力学習状況調査結果の分析を行う。本校の学習指導の課題について共通理解を図り、問題解決に向けた取り組みについて話し合う。

②校内研究会の充実

- ・S&Uコラボ事業を活用し、研修の活性化を図る。
- ・研究授業を全職員で参観し、授業研究会で意見交流を積極的に行うことで、授業改善を図る。

3 研究内容

(1) 主な研究

月	形態	研修内容
4月 5月	研究推進委員会	【学校課題共有】 ・本研究計画の立案・検討
	全体研修会 教科部会	・学校課題のとらえ方と研究の方法・進め方の確認・共通理解 ・各教科、領域で研究計画の話し合い
6月	職員研修	【校内授業研究会】 ・2年保健体育科「健康と環境」研究授業・授業研究会
7月	生徒による授業評価	・生徒アンケートによる授業評価
8月	全体研修会	・全国、とちぎっ子学力学習状況調査結果の分析 ・教員による授業の自己評価
	小中連携研修(学区)	・小中教職員合同研修会における講話 講師 金森 宏 先生
	個人研究	・生徒による授業評価の集計結果の考察
9月	職員研修	・全国学力状況調査結果の分析
	職員研修	【校内授業研究会】 ・1年技術・家庭科「正確にのこぎりびきをしよう」 研究授業・授業研究会
10月	職員研修	【S&Uコラボ事業】 ・講師 松本 敏 先生 ・2年保健体育科「傷害の防止」研究授業・授業研究会

1 1 月	職員研修	【校内授業研究会】 ・ 2 年数学科「平行と合同」研究授業・授業研究会
1 2 月	職員研修	【S&Uコラボ事業】 ・ 講師 日野 圭子 先生 ・ 1 年数学科「平面図形」研究授業・授業研究会
1 月	教科研修	【要請訪問】 ・ 指導者 稲葉 亜希恵 先生 ・ 1 年英語科「A New Year's Visit」研究授業・授業研究会
3 月	研究推進委員会	・ 成果と課題の確認と次年度の計画立案に向けた話し合い

(2) 研究の実際

① 1 0 月 4 日 (水) S&Uコラボ事業

授業研究会 2 年保健体育科「傷害の防止」

指導者 宇都宮大学教育学部教授 松本 敏 先生

講話 「主体性を育成するための授業づくり～未来を切り拓く力を育てる～」

身近に起こるけがについて、適切な手当て法を考え道具を使って実際に活動したり発表したりする学習である。生徒たちは、5 月に受けた AED 講習会や既習内容で得た知識を活用しながら自由な発想でいきいきと活動していた。

研究協議では、グループ内の役割分担や学び合う態度など「学業指導の徹底」につながる意見が多く出された。指導講評では、分かりやすく教える専門科目の知識を深めることに加え、生徒のつまずきから何を学ぶのか、それをどう生かすか、日々の実践で考えることについてご指導いただいた。



② 1 2 月 1 3 日 (水) S&Uコラボ事業

授業研究会 1 年数学科「平面図形」

指導者 宇都宮大学教育学部教授 日野 圭子 先生

講話 ※研究授業と学校課題を関連させた内容の講話



75° の角を作図する方法を考え、説明する学習である。小グループの発表の場面では、協力したり認め合ったりする場面が多く見られた。お互いの考え方をよく理解し合い、自分の考えと他の考えを比較していた。最後まで粘り強く取り組むことができた。

研究協議では、授業で生徒に考え方の見通しを持たせることが大切だという意見などが出された。指導講評では、間違えている生徒や立ち止まっている生徒の状態を全体で取り上げ、解決方法を全体で考えさせる「発展途上の考えこそ、共有して取り上げる」

大切さについてご指導いただいた。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

生徒による学校評価アンケートには、「授業中、意欲的に学び考えている」という項目で「そう思う」という回答が95%であった。また、保護者による学校評価アンケートでも、「授業の分かりやすさ」や「学習への意欲的な取組」に関する質問ではどの項目も昨年度より良い結果となった。

(2) 研究の課題

本校の現状としては基礎・基本を習得させるために「学業指導の徹底」について、全職員で共通理解を図る必要がある。その問題意識を、まず全教員でもてるようにしたい。また、授業研究においては教科部会をさらに充実させ、教師同士の「学び合い」の体制づくりに力を入れていきたい。